



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE  
日本学術振興会

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業



# 踏み出せば、世界。

世界中の若手研究者と

ノーベル賞受賞者との刺激的な一週間



LINDAU  
NOBEL LAUREATE  
MEETINGS

# あなたの世界は変わっていく。 リンダウの一週間から、

## 会議概要 Overview

本会議は、世界各地の若手研究者の育成を目的として1951年に開設され、毎年リンダウ\*において一週間程度の日程で開催されています。

毎回30名程度のノーベル賞受賞者が招かれ、世界各地から集った若手研究者に対して講演を行うとともに参加者とのディスカッションに応じるもので、若手研究者にとっては受賞者と昼夜親しく接して大きな知的刺激を受けると同時に、世界中に研究者ネットワークを形成する絶好の機会となっています。

\* Lindau: ドイツ南部のボーデン湖に面する保養地

## 主催者 Organizers

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議評議会  
リンダウ・ノーベル賞受賞者会議基金

## 開催地 Venue

ドイツ・リンダウ  
Lindau, Germany

## 対象者 Target Person

博士課程学生 及び  
若手研究者

## 対象分野 Target Field

物理学、化学、生理学・医学の自然科学3分野から、毎年上記の順序で1分野を対象とする会議がローテーションで行われますが、5年ごとにこのローテーションを止めて、3分野合同会議が挟み込まれます。

また、2〜3年ごとに経済学分野の会議が追加的に開催されます。

写真左から)

©Christian Flemming/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Patrick Kunkel/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Christian Flemming/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Christian Flemming/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Patrick Kunkel/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Julia Nimke/Lindau Nobel Laureate Meetings

## 会議日程 Schedule

### 1週間程度

物理学、化学、生理学・医学分野 →各開催該当年の6月下旬頃

経済学分野 →開催該当年の8月下旬頃

3分野合同会議(物理学、化学、医学・生理学) →開催該当年の6月下旬頃

## 参加方法 How to Participate

JSPSでは、主催者に日本からの参加者候補の推薦を行うとともに、参加にかかる経費を支援しています。例年6月頃に参加者の募集を開始します。

※JSPSが主催者に候補者を推薦した後、主催者における審査を経て最終的な会議参加者が決定します。

## JSPS 支援経費 Support Expenses

往復航空賃、  
外国・国内交通費、  
会議参加費(滞在費含む)

## プログラム例 Program Example

- ノーベル賞受賞者による講義やディスカッション
- パネルディスカッション、ポスターセッション
- 参加者によるプレゼンテーション
- サイエンスウォーク  
(ノーベル賞受賞者、他の参加者と共にリンダウの美しい街並みを探索しながら、インフォーマルな会話を楽しめる)
- その他ソーシャルイベント(ボートトリップなど)

## リンダウ島について

リンダウ会議の開催地は、ドイツ、スイス、オーストリアにまたがるボーデン湖に浮かぶリンダウ島です。リンダウ島は面積わずか70ヘクタール、約25,000人の住民が暮らす小さな島ですが、美しい自然や旧市街の風景からヨーロッパ屈指の保養地となっています。港からは雄大なアルプスとボーデン湖が見渡せ、街には教会や旧市庁舎など歴史的建造物や特徴的な建物が多く残されています。日常から離れ、リラックスしながら研究者と交流のできる絶好の場所になっています。



# 参加者の声

## Voice of Participants

\*所属は参加当時のもの



### 「いま」と「これから」に効く インスピレーション。

このような多国籍、多分野にまたがる会議は初めてだったのですが、非常に多くのインスピレーション(現在・次の研究への着想)をいただきました。

個人として、また、参加者とのコラボレーションを通じて、今後、新たな知見を科学界に還元できることを確信しています。

西川佳孝:京都大学【第68回(生理学・医学)・博士課程学生】

### わたしたちの現場は、現実にある世界だ。

日本国内で過ごしていると、どうしても目先の就職活動や、論文の本数に気を取られがちです。自分たちの研究がどのように現実と結びついていくかを強く意識して研究活動に取り組みべきだと強く思いました。リンドウ会議で今までにない密度で他の若手経済学者と交流し、彼らの考えや経済学に対する情熱を感じることができました。

澤田有希子:大阪大学【第6回(経済学)・研究員】

### 縛りはない。 領域を越える研究がはじまる。

国という縛りに囚われないグローバルな研究活動が今後より一層求められていくことを確信しました。

分野の大きく異なる研究の話を理解することは難しくもありましたが、改めて幅広い分野の研究に触れる楽しさを思い出させてくれる良い機会となりました。

西口昭広:アーヘン工科大学【第65回(3分野合同)・ポスドク】

### この空は、 リンドウの仲間につながっている。

ノーベル賞受賞者の方々との交流を通して、専門的な研究に関する知識だけでなく、研究の進め方・考え方、教育方法、キャリアの築き方など、幅広い知識を得ることが出来ました。また、世界中の優秀な若手研究者達と交流することで、研究への新たなモチベーションを得るとともに、世界中の異なる文化などについて見識を広げることが出来ました。これらの経験は、自身のこれからの研究活動に大きな影響を与えてくれると思います。

安達真聡:ドイツ航空宇宙センター【第69回(物理学)・ポスドク】

### 「自分の化学」が、見つかった。

普段の研究生活では、どうしても自分の研究内容に没頭して、思うようにいかなかった時のストレスに押しつぶされそうになってしまうことが多いです。しかし今回の会議では、その失敗や苦勞を忘れ、化学のexcitingな部分を互いに紹介し合うことで、研究の楽しさを再確認した場となりました。毎日の細かな苦勞、失敗ばかりに目を向けるのではなく、大きな視点で、自分の研究がどのように社会に還元されて、どのように貢献できるのかに目を向ける大切さを認識しました。また、異分野の人と交流することで、自分の分野の特異性を見ることができ、それをさらに活用するには何が必要なのかを考えさせてくれるいい機会となりました。

曾明燦:イェール大学【第67回(化学)・博士課程学生】

※他にも多数の参加者の声がウェブサイトに掲載されていますので、是非ご覧ください。

表紙写真/左上から) ©Christian Flemming/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Christian Flemming/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Patrick Kunkel/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Patrick Kunkel/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Patrick Kunkel/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Julia Nimke/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Christian Flemming/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Julia Nimke/Lindau Nobel Laureate Meetings, ©Patrick Kunkel/Lindau Nobel Laureate Meetings

## 問い合わせ先

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1

独立行政法人日本学術振興会

国際事業部 研究協力第一課

リンドウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業 担当

TEL:03-3263-0986 E-mail:lindau@sps.go.jp

JSPSリンドウ・ノーベル賞受賞者会議  
派遣事業ウェブサイト

<https://www.jpsps.go.jp/fj-lindau/>



リンドウ会議公式ウェブサイト

<https://www.lindau-nobel.org/>

